第15回 総合

◆次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

大空を、(1)わがもの顔にかけていた、このわかいワシは、とうとう、生けどりにされてしまった。あたりには、ワシの羽毛がとびちって、ふみにじられていた。

フジづるで、ぐるぐるまきにされたワシは、ごろんと、落ち葉の上に、ころがされていた。ワシはもう、身動きもできず、荷物かなにかのように、ころがされていた。

しかし、それでも、ワシはワシであった。

目だけは、（　1　）見ひらいて、もえるような金色のひとみで、じっと源次をにらみつけているのである。

最後の最後まで、意気さかんなワシである。

こんなになっても、まだまだ、負けたというようすをしめさない、ワシを見ていると、源次は、なにかむねをうたれて、このわかいワシが、ほんとにすきになっていくのであった。

源次は、自分の家のニワトリ小屋を、じょうぶにつくりなおすと、その中で、このわかいワシを飼ってみることにした。

フジづるをとかれて、小屋にいれられたワシは、もう、すっかりつかれきっていた。

よごれた土の上に、かたいっぽうのはねを、（　2　）たれたまま、しゃがんでいた。

けさまで、あんなに、つやつや光っていたはねも、ささくれだって、ばさばさしてしまったように思われた。

近くの子どもたちが、めずらしがって、ニワトリ小屋のまわりに集まってきて、ガヤガヤさわぎながら、見物していても、飛びかかってこようとするようすも、しめさないのである。いや、身動きさえしないのである。そのうえ、(2)まわりに、なにが起ころうと、もうかまったことではない、といったように、目をとじているのである。

さすがのワシも、闘志がなくなってしまったのであろうか。

こんなようすをしているワシは、みじめなものである。

こんなすがたで生かしておくよりも、(3)ひとおもいに、銃でうちとってしまったほうが、ワシのために、かえって、よかったかもしれない、と、源次は考えた。

そんなことを考えると、源次は、いらいらしてきた。

「こら、このワシは、見せ物じゃないぞ。帰れ、帰れ！」

と、(4)源次は、やつあたりに、子どもたちにあたりちらした。

源次の声が、あまりに大きかったので、子どもたちはおどろいて、じりじりとあとずさりしながら、ニワトリ小屋から、遠ざかっていった。

つぎの朝、源次は目をさますと、なによりもさきに、ニ

01演習問題集(基)国語4年下-問題cs4.indd 49　12/06/01 21:59

ワトリ小屋にいってみた。
わかいワシは、きのうとおなじところに、きのうとおなじように、しゃがみこんでいた。
けれど、目だけは、（　3　）開いて、源次を、まっすぐに、にらみつけていた。
「おお、すこしは、元気をとりもどしたな。」
（　4　）安心したように、ため息をつきながら、用意してきたウサギのかた足を、さくのあいだから、ぽいと、投げてやった。
ウサギのかた足は、うずくまっている、わかいワシのまん前に、うまくおちた。
ワシは、そのウサギのかた足を、じっと、見つめていた。が、さわさわと、首の羽毛をさかだてたとおもうと、そのかた足をくわえて、ひとふりふったとおもうと、はげしく投げとばした。
かた足は、ふりとばされて、トリ小屋のさくに、にぶい音をたてて、うちあたった。
「　　」
といった、野に住むものの、ほこりをしめす動作のようにも思われた。
源次は、おどろいて、まんまるく、大きく目をむいて、このワシを見つめていた。が、いかにも、(5)感にたえたように、
「おまえは空の王さまだけあるぞ。どんなめにあっても、なかなか意気さかんで、へこたれないものなあ。おらあ、おまえみたいなやつがすきだ。そのうちに、いい友だちになろうぜ。」
と、つぶやくのであった。
源次は、このほこりたかいワシを見ていると、心の中が、（　5　）、明るくなっていくのを感じるのであった。
（椋鳩十「大空に生きる」より）

問一　（　1　）～（　5　）にあてはまる言葉をそれぞれ次から選び、記号で答えなさい（同じものを何度使ってもかまいません）。
ア　だらりと　　イ　ほっと　　ウ　ほのぼのと
エ　かっと　　オ　ぽいと　　カ　じっと

問二　――線(1)「わがもの顔」の意味するようすとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。
ア　人間にはまだ慣れていないようす。
イ　力いっぱい、全力を出して行動するようす。
ウ　自由気ままにふるまうようす。
エ　何不自由なく暮らしているようす。

01演習問題集(基)国語4年下-問題cs4.indd 50 12/06/01 21:59

問三　――線(2)「まわりに、なにが起ころうと、もうかまったことではない」とありますが、これはワシのどんな気持ちからきたものですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　もうあきらめてしまって、たたかう気力をなくしてしまっている。
イ　苦しみからのがれるため、早く銃でうち殺して欲しいと願っている。
ウ　人間どもの動きなど自分とはまったくかかわりない、と思っている。
エ　運命にしたがって、人間に飼われて生きていこう、とあきらめている。

問四　――線(3)「ひとおもいに、銃で……源次は考えた」とありますが、これは源次のどういう気持ちを表したものですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　ワシに対する憎しみ。
イ　子どもたちのわずらわしさ。
ウ　ワシに対する思いやり。
エ　猟師としてのつらさ。

問五　――線(4)「源次は、やつあたりに、子どもたちにあたりちらした」とありますが、源次が子どもたちにあたりちらしたのはどうしてですか。文章中の言葉を使って、八十字以内で答えなさい。

問六　「［　　］」にあてはまる言葉として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　おれは、すこしも、はらなどへっていないぞ。
イ　ウサギの肉ぐらいで、おれがよろこぶものか。
ウ　こんなまずいものが食えるものか。
エ　人間の投げてくれるものなんか、食うものか。

問七　――線(5)「感にたえたように」とは「深く心をうたれたように」という意味ですが、源次は、ワシのどんなようすに心をうたれたのですか。会話文の中の言葉を使って、三十五字以内で答えなさい。

問八　この文章で作者が最も表現したかったことはどんなことですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　野にすむワシのほこり。
イ　人間にとらえられたワシの悲しみ。
ウ　自分をとらえた人間へのワシの怒り。
エ　すばらしいワシを手に入れた源次の喜び。

01演習問題集(基)国語4年下-問題cs4.indd　51　　12/06/01　21:59